

山陽オートレース場の競争路改修

情報化施工で平たん性

大成ロテック



大成ロテックは、山口県山陽小野田市所有の山陽オートレース場を運営している日本

写真判定（本社・東京都千代田区、渡辺俊太郎社長）から競争路の改修を受注し、最新の情報化施工技術を活用して優れた平たん性の競争路を完成させた。写真。施工完了後の競争路の平たん性測定値σ（シクマ）は、規格値1・0ミに対して、平均0・5ミ、レースで選手が主に走行する黒潮ラインで0・58ミを実現。選手会による試走でも「横施工ジョイント、縦施工ジョイントも段差を感じることなく、平たんな走路である」という評価を得た。

オートレース場の競争路（1周500ミ、幅員30ミ）に特に求められる性能は、平

たん性、透水性、滑り抵抗性で、これらの性能を向上させることにより、高速かつ安全なレースが展開される。今回の改修では、路面の透水性と滑り抵抗性を高めるため、品質を重視して選定した舗装材料を配合した、防府アスコン（山口県防府市）製造の高安

定度特殊開粒度アスファルト混合物を表層に舗装した。また、平たん性を向上させるため、トータルステーション（TS）による3次元マシンコントロールでアスファルトフィニッシャを自動制御した。混合物を敷き均すスクリードの位置座標を自動追尾式TSで測定し、その位置でのスクリードの高さを自動制御するもので、敷き均し高さ精度を高めることにより、過去の実績と比べても非常に優れた平たん性を達成した。

今回の施工に際しては、日本写真判定、選手会と密な打ち合わせをしながら進めるとともに、改修後の初開催となる「GI第26回若獅子杯争奪戦」のポスターに施工中の状況写真を掲載したり、公式ツイッターや公式フェイスブックで施工状況を発信するなど、協力を得た。

大成ロテックでは、アスファルトフィニッシャやローラ類、モータクレータ、路面切削機などの施工に情報化施工技術の導入を進めており、今後も熟練の施工ノウハウと最新の施工技術を組み合わせ、高品質な舗装を構築していく。